

道路や鉄道等の交通ネットワークや国際競争力のある港などの整備を推進し、横浜経済の更なる発展と国内外からの人・投資を呼び込みます。

また、市民生活の安全と利便性、企業活動の維持に直結する公共施設の保全更新を計画的かつ効果的に進め、都市機能の強化を実現します。

主な内容

■ 生活や経済を支える交通ネットワーク

◇ 広域的な道路ネットワーク形成

圏央道の一部を構成する横浜環状南線・横浜湘南道路の開通に向け整備を推進し、広域的な道路ネットワークの形成を図ります。また、国の社会資本整備審議会を踏まえ、ETC専用化等による機動的な料金施策の実現や、高速道路の維持管理・更新等の検討を促進します。

◇ 市内道路ネットワーク形成

都市の骨格となる都市計画道路を整備し、体系的な道路ネットワークを形成します。また、道路と鉄道の連続立体交差化（相模鉄道本線鶴ヶ峰駅付近）による踏切除却、地域の分断解消に取り組めます。

◇ 充実した鉄道ネットワークの構築

鉄道ネットワークの利便性・速達性や沿線地域の活性化向上に向けて、神奈川東部方面線（相鉄・東急直通線）の整備や、高速鉄道3号線の延伸（あざみ野から新百合ヶ丘まで）を着実に推進するとともに、国の交通政策審議会を踏まえ、横浜環状鉄道の新設など本市の鉄道構想路線について検討を進めます。

■ 国際競争力のある港の実現

◇ 物流機能の強化

「国際コンテナ戦略港湾」として、急速に進展する船舶の大型化に対応し、基幹航路の維持・拡大を図るため、ふ頭機能の再編・強化を進めるとともに、港湾のデジタル化による効率性・生産性の向上に取り組めます。

◇ クルーズ船の受入と環境整備

観光により市内経済を活性化するため、安全・安心なクルーズ船の受入れを行うとともに、みなとみらい21地区等において、回遊性向上やにぎわい施設の改修等に取り組めます。

◇ カーボンニュートラルポートの形成

臨海部の脱炭素化に向け、水素等の輸入拠点化や供給インフラの整備、船舶への陸上電力供給等の検討を進めます。また、豊かな海づくり事業として、生物共生型護岸の整備、CO₂を吸収するブルーカーボンとしての機能も担う藻場・浅場の形成などに取り組めます。

■ 公共施設の保全更新

◇ 公共施設（都市インフラ^{*1}、公共建築物^{*2}）におけるサービス水準の維持・向上

着実な保全や長寿命化による将来を見通した計画的な更新を推進するとともに、デジタル技術を活用し、社会環境の変化に応じたサービスを提供します。

◇ 公共建築物の戦略的な再編整備の推進

将来の人口や財政の規模等を見据え、施設規模や配置の最適化、多目的化・複合化、実施時期の中長期的な平準化など、計画的な再編整備・リノベーション等を進めます。

◇ 建設業等における働き方改革と生産性の向上の取組の推進

建設業等の働き方改革に向けて、週休2日や施工時期の平準化等を推進するとともに、生産性向上のために、BIM/CIM^{*3}の活用やi-Construction^{*4}の促進に取り組めます。

公共施設の保全更新（横浜市の保有施設から）

【出典】横浜市公共建築物マネジメント白書



焼却工場（金沢工場）



市場小学校



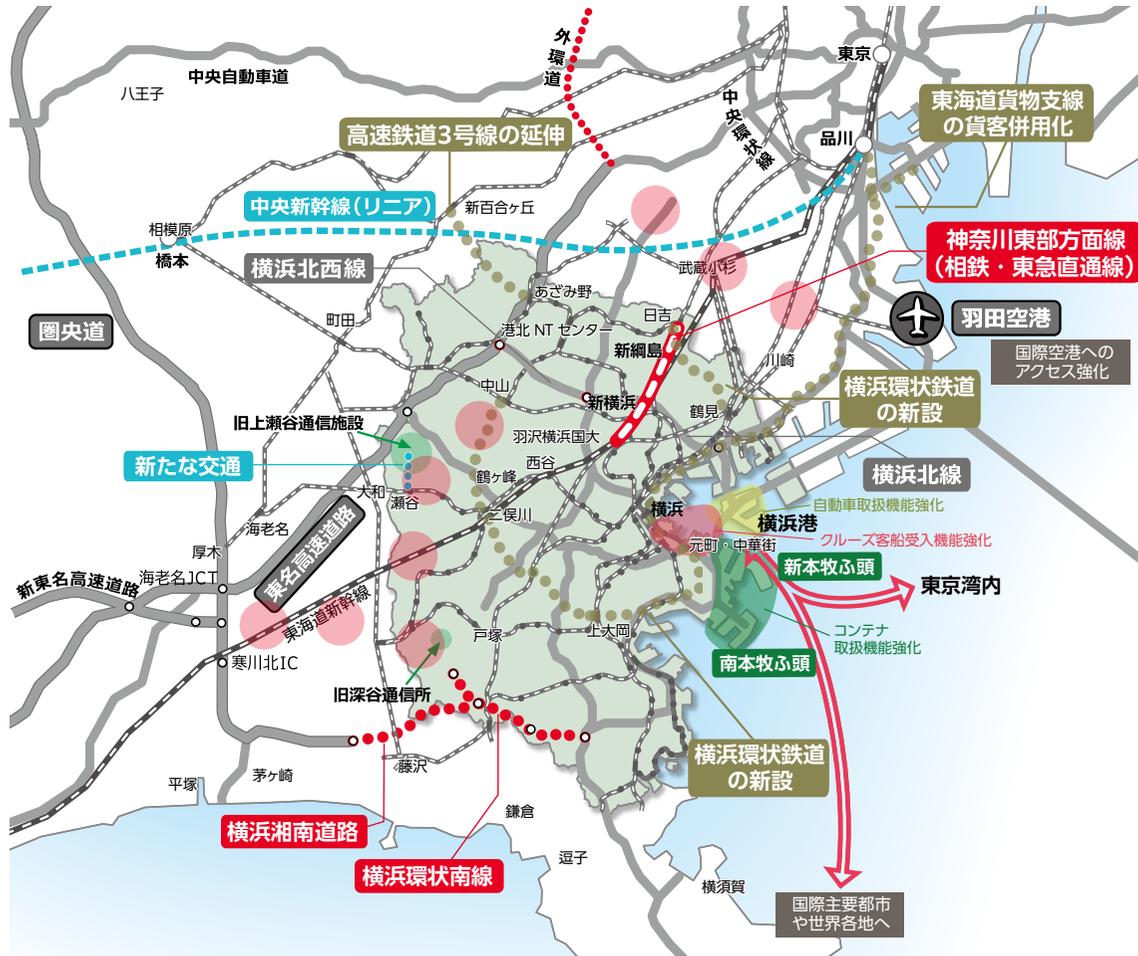
すすき野地域ケアプラザ

*1 都市インフラ：道路、河川施設、公園、上下水道施設、ごみ処理施設、港湾施設、市営地下鉄等

*2 公共建築物：市民利用施設、社会福祉施設、学校施設、市営住宅等

*3 BIM/CIM：3次元モデルの導入により、事業全体の情報共有を容易にし、効率化・高度化を図る取組

*4 i-Construction：ICTの導入により、建設生産システムの生産性向上を図り、魅力ある建設現場を目指す取組



- 中央新幹線
- 構想中(新たな交通)
- 事業中(自動車専用道路)
- 供用中(自動車専用道路)
- 構想中(自動車専用道路)
- 事業中(鉄道)
- 供用中(鉄道)
- 東海道新幹線
- 計画路線(鉄道)

【出典】横浜市政策局

関連データ

交通ネットワークの変化

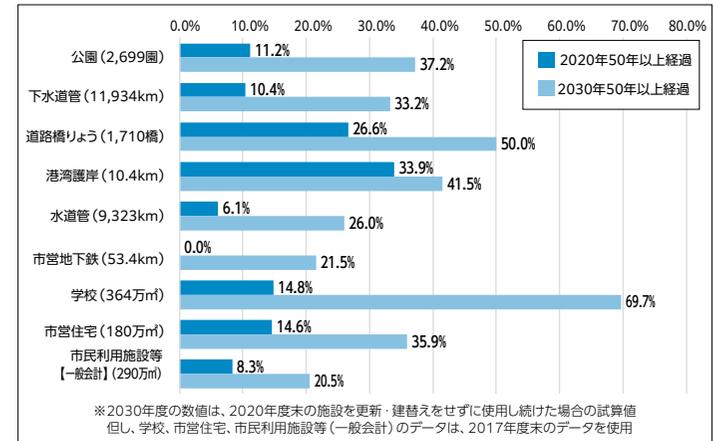
今後、道路や鉄道など地域をつなぐ交通ネットワークの整備や港湾施設の強化が予定されている。

- 道路
 - 横浜湘南道路*
 - 横浜環状南線*
 - ※開通時期については、事業者(国土交通省及び東日本高速道路株式会社)により検討中
- 鉄道
 - 【令和4年度】神奈川東部方面線(相鉄・東急直通線)
 - 【令和9年度】リニア中央新幹線(品川～名古屋)
 - 【令和12年】高速鉄道3号線の延伸(開業目標)*
 - ※交通政策審議会答申の目標年次
- 港湾
 - 【令和9年度以降】新本牧ふ頭

関連データ

整備後50年以上経過する施設の割合

人口急増期に集中して整備した都市インフラや公共建築物が整備後50年以上を経過する割合が増加している。今後、老朽化が進行するとともに、適切な保全更新や大量の建替えの必要性が生じる。



【出典】横浜市財政局

関係する政策

- 政策36 交通ネットワークの充実
- 政策37 国際競争力のある総合港湾づくり
- 政策38 公共施設の計画的・効果的な保全更新

政策の目標

横浜環状道路等の整備により広域的な道路ネットワークを形成するとともに、都市計画道路の整備、連続立体交差事業を推進し、道路の安全性向上や緊急輸送路の確保、横浜港の国際競争力の強化、渋滞緩和などを図ることで、市民生活や横浜経済を支える道路ネットワークの形成が進んでいます。

市民生活や企業活動の活性化に向けて、まちづくりと一体となった鉄道ネットワークの構築を進めることで、市内外への移動の円滑化や利便性の向上が図られています。

政策指標

道路：市内の主要渋滞箇所数

直近の現状値	目標値
129箇所	減少 (おおむね10年で2割削減)

鉄道：鉄道整備による効果
(相鉄・東急直通線開業による二俣川駅-目黒駅の所要時間)

直近の現状値	目標値
約54分	約38分

関係するSDGsの取組

3 すべての人に健康と福祉を

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

11 住み続けられるまちづくりを

13 気候変動に具体的な対策を

現状と課題

- 横浜北線、横浜北西線の開通により、横浜港と東名高速道路とのアクセス性が大幅に向上しました。引き続き、横浜環状南線、横浜湘南道路の整備による広域的な道路ネットワークの強化が必要です。
- 都市計画道路の整備率は指定都市の中で最低の水準にあり、慢性的な道路渋滞をもたらす要因になるなど質・量ともに不十分な状況です。市民生活の利便性向上には、引き続き、都市計画道路の整備を行い、市内道路ネットワークの形成を進める必要があります。
- 星川駅から天王町駅間連続立体交差事業の完了により、地域の安全性向上と交通渋滞の解消が実現しました。市内には課題のある踏切が多くあるため、引き続き、多数の踏切を一挙に除却できる連続立体交差化を進める必要があります。
- 鉄道ネットワークの構築に伴う利便性等の向上により、市民生活や企業活動の活性化に寄与してきました。引き続き、神奈川東部方面線の整備(相鉄・東急直通線)、高速鉄道3号線の延伸(あざみ野から新百合ヶ丘まで)等を着実に進めるとともに、人の流れや企業立地の変化、まちづくりの状況などを踏まえ、将来の鉄道ネットワークの充実にに向けた検討も必要です。

横浜環状南線・横浜湘南道路の開通効果



【出典】よこかんみなみHP(東日本高速道路株)

市内の主要渋滞箇所(令和3年度129箇所)



【出典】第25回神奈川県移動性(モビリティ)向上委員会資料を基に横浜市道路局が作成

高速鉄道3号線の延伸による整備効果



【出典】横浜市都市整備局

◎ 主な施策

1	横浜環状道路等の整備推進	主管局	道路局
<p>横浜港の国際競争力の強化、横浜経済の活性化、市民生活の利便性向上などを図るため、圏央道の西側区間で唯一未開通となっている横浜環状南線・横浜湘南道路及びアクセス道路の整備を推進します。</p>			

施策指標	横浜環状南線・横浜湘南道路の事業進捗	
	直近の現状値	目標値
	事業中	事業中*

※開通時期については、事業者(国土交通省及び東日本高速道路株式会社)により検討中

2	都市計画道路の整備	主管局	道路局
<p>市民生活の安全・安心に加え、利便性向上や横浜経済を支えるため、都市計画道路等の事業中路線の整備を推進するとともに、未着手の路線についても事業化に向けた検討を進めます。</p>			

施策指標	都市計画道路の整備済延長	
	直近の現状値	目標値
	事業中	5km

3	連続立体交差事業の推進	主管局	道路局
<p>踏切除却による道路交通の円滑化、緊急活動の阻害解消による地域の安全性の向上、まちの分断解消による地域の活性化等を図るため、相模鉄道本線(鶴ヶ峰駅付近)連続立体交差事業を推進します。</p>			

施策指標	鶴ヶ峰駅付近連続立体交差事業の事業進捗(令和15年度完成予定)	
	直近の現状値	目標値
	都市計画決定	工事推進中

4	鉄道ネットワークの整備推進等	主管局	都市整備局、交通局
<p>横浜西部と東京都心方面の直結により、速達性・利便性の向上や新横浜都心の機能強化等を図るために、令和5年3月の開業に向けて神奈川東部方面線の整備(相鉄・東急直通線)を推進します。横浜と川崎市北部を結ぶ新たな都市軸の形成、新横浜駅へのアクセス強化、沿線地域の活性化等を目指し、高速鉄道3号線の延伸(あざみ野から新百合ヶ丘まで)を着実に推進するとともに、交通政策審議会の答申等を踏まえ、横浜環状鉄道の新設等の検討を進めます。また、グリーンラインの6両化を進め令和6年度までに段階的に10編成を導入します。</p>			

施策指標	①神奈川東部方面線の整備 ②高速鉄道3号線の延伸の事業進捗(令和12年開業目標(交通政策審議会答申の目標年次))	
	直近の現状値	目標値
	①工事中 ②推進	①開業(令和5年3月) ②推進